



幸せを呼ぶ港七福神めぐり

一柱でも縁起の良い神様が七柱も集まって、そのうえ宝物をたくさん積んだ船に乗っていらっしやる。さぞかし素晴らしい幸運が期待できるのではないだろうか。正月恒例の「港七福神めぐり」は各福神が祀られた社寺を巡拝し、御朱印をいただく人気の行事だ。七福神とは恵比寿、大黒天、弁財天、布袋、福祿寿、壽老神、毘沙門天の七柱。日本古来の神様もいれば、外国からの神様もあり、長い年月の間に宗教の垣根を超えて、人々の信仰が形になったものである。

港七福神めぐりは毎年、元日から成人の日まで行われている。期間中は限定の御朱印や御守を受けることが可能だ。正月に七福神参拝はいかがだろうか。

期間 令和4年1月1日(土)～10日(月・祝) ※元日～成人の日

受付時間 9:00～17:00

※ただし最終日に七福神巡りを始める場合は14:00開始が最終受付

※巡拝時間の目安は3～4時間



① 大法寺 大黒天

ここに祀られている福神様は三神具足大黒尊天。手には大黒天の小槌を持ち、弁財天の髪、毘沙門天の鎧をまとっている。三福神を一つの体で表しているのはとても珍しい。お参りすれば3倍のご利益をいただけるのは間違いない。

元麻布1-1-10 ☎03-3451-6039



⑤ 宝珠院 弁財天

門や囲いのない庭園のような宝珠院。敷地内にはかつて蓮が生い茂り、「蓮池」と呼ばれた弁天池がある。その美しさは川瀬巴水などの芸術家に愛され、作品の題材となった。また、高さ2m、迫力満点の閻魔大王像(港区指定文化財)も見どころの一つ。

芝公園4-8-55 ☎03-3431-0987



② 麻布氷川神社 毘沙門天

かつてアニメ界を一世風靡したセーラーMoon。その人気は日本国内に留まらず、海外にも広まり、コスプレを楽しむ外国人も少なくない。セーラーMoonに登場する火野レイが巫女をしている神社のモデルがこの氷川神社。アニメファンには聖地巡礼の地として知られている。

元麻布1-4-23 ☎03-3446-8796



正月の港七福神めぐりの色紙

⑥ 熊野神社 恵比寿

日本神話に登場する三本足のカラス、八咫鳥が社紋に使用されており、日本サッカー協会のシンボルマークと同じである。そのことから協会公認のサッカー御守を扱っている。サッカーファンや未来の選手たちにとって人気の神社だ。

麻布台2-2-14 ☎03-3589-6008



③ 櫻田神社 壽老神

現在の西麻布あたりにあった陸奥国白河藩下屋敷で生れた沖田総司。彼がお宮参りをしたのがこの神社だ。それ故に新選組ファンには有名な場所である。また、乃木希典(乃木將軍)もこの神社でお宮参りをしている。

西麻布3-2-17 ☎03-3405-0868



⑦ 十番稲荷神社 宝船

江戸時代、麻布古川辺りから起こった大火事の時、旗本屋敷の池に棲んでいた大蛙が水を吹きかけ火を退けたという、麻布七不思議の一つ、蝦蟇池伝説が伝わる。故事に因んだ蛙の御守は、「カエル」の語音から防火だけでなく、無事帰る、若返るなどのご利益でも尊ばれている。

麻布十番1-4-6 ☎03-3583-6250



④ 天祖神社 福祿寿

その昔、毎夜海からやって来た龍が神社に灯明を献じた。このことから神社は龍土神明宮と呼ばれていた。龍灯に因んでこの付近は龍土村になった(麻布龍土町。今の六本木7丁目あたり)。

六本木7-7-7 ☎03-3408-5898



⑧ 久國神社 布袋

鎌倉時代の刀工、粟田口久國作の名刀が寄進され、神社の名前の由来となっている。また、正面の扁額は勝海舟の筆によるもの。

六本木2-1-16 ☎03-3583-2896



「ザ・AZABU」で何か書きたいことない？と聞かれて、真っ先に思い浮かんだのが麻布十番商店街にある、月島家さんのご主人がいつも見ている景色！あの窓から見る景色はどんなだろうか？きっと私が知る商店街の姿とは違うだろうなあとと思ったら、お店のあの小さな窓に興味を湧いた。



子供の頃は今ある月島家さんのお店が店舗兼、ご自宅だったとか。幼少期は今では知る人も少ない、商店街にアーケードがあった頃。2階の窓を開けるとアーケードの屋根だったとか、商店街も火曜日休みがほとんどで火曜はしんと静かだったとか、朝はお店の前でキャッチボール出来るほど人通りが少なかったとか懐かしそうに思い出話をしてくれた。



毎年、町内の神輿を担ぐ秋祭りが子供の頃の1番の楽しい思い出だと言う。それも今では同じく麻布育ちの娘さんと参加しているとか言うのだから、やっぱり親子代々、麻布が染みついている。私のような新参者とは法被の着こなし方も違うし、御輿の担ぎ方も全く違う。

そんなご主人が働く姿を見られるのはお店だけじゃない。時にはイベントの警備をしていたり、街おこしの計画を練る集まりだったり、仲間の応援をしていたりと、この麻布を活発にしてくれている人達の一人でもあるから有難い。毎度大変だろうけど、いつもにこにこ楽しそうに商店街の仕事をしているのは、やはりこの街が好きだからなんだろうなあと思う。



道を歩けば、小学校や中学校時代の先輩や後輩達に会う環境で今でも暮らしている。だからと言って麻布育ちじゃない私が、新入生の我が子の心配で、あれやこれやと聞いても質問以上に懇切丁寧に教えてくれるご主人。

ご自身にとっての月島家さんと麻布十番商店街とは？と聞くと、「生まれ育った街なので、なくてはならない、守っていかなければいけない、ふるさと」だとか。取材をしていると丁度近所の小学生達の下校時間に当たった。店先を通る子供達がお店を覗き、手を振り通り過ぎる。この子供達あの温かい眼差しを感じて毎日登下校しているのだろう。この街の皆、あの小さな窓からご主人に見守られているんだなあと。

ご主人はじめ、麻布をふるさとと言える人が少なからずこの町にはいる。しかも皆、情が深く、下町臭い。そんな街だから私も好きになったのかなあと改めて感じた取材だった。

これから始まる長い冬はご主人が作る今川焼を食べ身共に温まらせて貰おう。

人情や未来、あの小さな窓からたくさんの物が見えた。今日も月島家のご主人はあの小さな窓から、温容に私達の事を見守ってくれているのだろう。



港区麻布十番2-3-1 電話/03-3452-0991
https://www.azabujuban.or.jp/shop/shop_category/eat/297/

(取材・文/ Mai S.)

麻布びと

未来へ残したい麻布の声

つしまや 月島家 店主
 きぬがさひろき 衣笠宏樹さん



小さな窓から親子代々、麻布の人達をいつも見守っている生粋の麻布っ子

私が商店街を通る時に目が合う人物が居る。その温かい眼差しの持ち主が十番名物今川焼きや出世いなりずしが人気の老舗、月島家さんのご主人の衣笠宏樹さん。どんより雨の日でも、寒い日でもお店の前を通ると、何だかほんわかするのはきっと私だけではないだろうなあと。そこで記事にさせてほしいと持ち掛けたら、一人で切り盛りするお店が忙しいのに二つ返事で了承してくれるから付き合いが良い。ご主人もだけど、麻布の人達は人情があるとやっぱり思う。加えて団結力も強いんだよなあと。



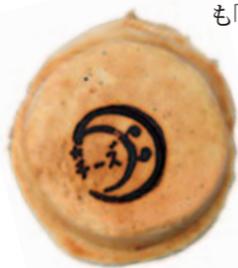
私がずっと不思議だった事のもう一つが今回の取材で明らかになった。それはお店に並ぶ「今川焼とお結びとお稲荷さん」。この組み合わせは普通じゃない。

聞くと「おじいさんが今川焼を焼いていて、そして2代目のお父さんが修行先の月島で学んだのが、お稲荷さんとお結び」と満面の笑みで教えてくれた。



褐色の肌とサンダルが似合うのはサーファーだから。休みの日、海には長年必ず通っているとか。趣味を充実しつつ、昭和26年から続く老舗を一人守る姿は凛々しく、そして「今年で創業70年。100年目指して頑張る！」と言うその顔は自信に溢れている。

聞くと継いでくれと言われてたわけじゃないけれど、大学卒業後にサラリーマンを選ばず、就職したのは近所に今でもあるやはり老舗のグルメハンバーガーレストランだったと言う。きっと将来を見据えての事。親子でそんな話をしなくても「商店街で育った子供が、商店街を引き継いだだけ」って感じてまるでいとも簡単な事のように笑いながら言う。けれど老舗を守る、街を守るってきっと大変な努力があるだろうと思う。だけどそんな事を感じさせないのはやっぱりあの目を細めた笑顔でさらっと言うからかな。



安心して登下校できると東洋英和女学院小学部の生徒さんから毎年届く感謝のお手紙。



地域社会
の
ゆくえ

27

生き生き元気! 御年数え100歳の先生の水墨画教室



南麻布の『ありすいきいきプラザ』は「高齢者のレクリエーション・学習」「介護予防・健康づくり」「区民の交流・コミュニティの場」として利用されています。その中に数えで100歳の渡邊^{とうしん}涛心(義信)先生が教えてくださる水墨画教室があると聞き、お伺いしてみました。

10月上旬、緊急事態宣言が明けた直後の水曜日の午後。先生は教室に一番乗り。生徒さんが入って来ると、先生が「この間お孫さんが生まれたんだって? 嬉しいね!」と笑顔で声をかけます。コロナで久し振りに来られた生徒さんには「間が開いてしまったから、遠慮なく質問してね。」と優しく話され、とても和やかな空間でした。

教室では、お手本を見ながら自分のペースで作画をします。最初に墨を磨^すって水と合わせて淡い墨を作り、紙に輪郭を描き込んで全体のバランスを取ります。筆運びの強弱・角度・スピードに加え、墨の濃淡・紙の水分量を調節してぼかし、滲み、かすれ、グラデーションで墨を重ねていきます。水墨画は一筆でさっと描くものと思っていたので、たくさんの奥深い表現方法があることに驚きました。先生は生徒さんの机を回って筆の動かし方や力の入れ具合をアドバイス。皆さん熱心に目と耳を傾けています。生徒さん同士もお互いに声をかけ合いながら、2時間後には鮮やかな作品が出来上がりました。

生徒さんの声

水墨画を描いている時は落ち着いて集中することができます。習い始めの頃に比べると、難しい作品に挑戦するのも楽しみなってきました。また、自分の特色も出せるよう先生もアドバイスしてくださいます。(小林孝さん)



生徒さんの声

「墨に五彩あり」と言われるように、水墨画は白黒ですが自分のイメージで色が無限に広がります。また、先生を筆頭にメンバーが持っている向上心、その取り組む心意気に大いに刺激を受けて元気になれます。(北川範子さん)



先生曰く「水墨画は始めるのは簡単だけど、自分の思い描く線を描くのが難しい。でもそれを何度も描いて見つけるのが楽しいんだよ。」描き直しができない緊張感もありながら、描きたい線を何度も何度も描いて根気良く追究すること、思い描いた画が描けた時の喜びが皆さんの元気の源かもしれませんね。私もいつか挑戦したいと思いました。

先生曰く「水墨画は始めるのは簡単だけど、自分の思い描く線を描くのが難しい。でもそれを何度も描いて見つけるのが楽しいんだよ。」描き直しができない緊張感もありながら、描きたい線を何度も何度も描いて根気良く追究すること、思い描いた画が描けた時の喜びが皆さんの元気の源かもしれませんね。私もいつか挑戦したいと思いました。

先生曰く「水墨画は始めるのは簡単だけど、自分の思い描く線を描くのが難しい。でもそれを何度も描いて見つけるのが楽しいんだよ。」描き直しができない緊張感もありながら、描きたい線を何度も何度も描いて根気良く追究すること、思い描いた画が描けた時の喜びが皆さんの元気の源かもしれませんね。私もいつか挑戦したいと思いました。



毎月第一・第三水曜
13時30分～15時30分に開催



渡邊涛心(義信)先生

涛心先生と水墨画

1922(大正11)年に白金三光町生まれ。20歳の時に麻布から戦地へ赴き、トラック諸島で終戦を迎えました。復員後は機械工場を設立し、子供の頃からエジソンに憧れ特許診断士の資格を取得し、自らも60以上の実用新案や特許を取得されました。

先生が水墨画を始めたのはなんと60歳のとき。弟さんに工場を譲り、港区の大貫先生の水墨画教室に入門。先生から達磨画を勧められ、静岡の禅寺に達磨大師と呼ばれていた^{とうせい}涛聖和尚に師事し、月に一度浜松まで車で約3時間かけて通って一日中描き込みをしていたそうです。師匠は「厳しく」もあり「しつこく」もあり、「目」「鼻」「口」「耳」だけをそれぞれ3ヶ月も描き続けることも…。そんな師匠の口ぐせは「長生きをしたければ水墨画をやりなさい、長生きの道は達磨画にある。」という言葉で、今でも先生の胸に刻まれているそうです。その後、港区を始めとした各地域で25年以上水墨画教室を開催されています。2004(平成16)年には他活動も含めた長年の功績を称えられ、藍綬^{らんじゆ}褒章^{ほうしょう}を受章されました。



表情豊かでどこか愛嬌のある達磨画。先生にも似ている?



先生曰く「60の手習い」だそうですが、全くそうは見えません!

ありすいきいきプラザの取り組み

●宮島館長にお聞きしました

緊急事態宣言下でしばらく閉鎖していましたが、再開に向けていち早く準備を行いました。1部屋で開催していた講座は2部屋にしてソーシャルディスタンスをキープし、定員・時間を半分にして密を避けて開催しています。再開してお越しになった方から、「みんなと会えるありがたみがわかった」と声を掛けてもらって嬉しかったです。来年からは安心して使えるように衛生面の対策をしっかり行い、少しずつ講座も増やしていきたいと考えています。

また、新たな取組としてテレビゲームを使って脳や指先を活性

化させるe-スポーツ体験会なども実施しています。敬老の日には併設する子ども中高生プラザの子ども達からフラダンス教室の生徒さんにプレゼントをしたところ、お礼にダンスを披露頂いたり、10月に開催された『ほのぼの作品』では、区民の100点以上の作品を展示しました。将来は高齢者のみならず世代間交流ができる複合施設を目指しています。

●ありすいきいきプラザ

〒106-0047 港区南麻布4丁目6番7号

電話/03-3444-3656 FAX/03-3444-3298

HP: <https://www.central.co.jp/plaza/alice/index.html>



ギジェルモ フアン ハント (Guillermo Juan HUNT) 大使

アルゼンチン共和国
 人口:約4,538万人(2020年、世銀)
 首都:ブエノスアイレス
 元首:大統領(アルベルト・フェルナンデス)
 (任期4年、1回限りの連続再選可)
 議会:二院制(上院72議席(任期6年)、下院257議席(任期4年)).
 上院議長は副大統領が兼任)

参考:外務省ホームページ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/argentine/data.html>

アルゼンチン共和国

地図提供:アルゼンチン観光公社(INPROTUR)

取材協力/アルゼンチン共和国大使館



麻布氷川神社の前にあるアルゼンチン大使館。



アルゼンチンのスポーツといえばサッカーだが、大使はテニスに親しんでいる。姿勢もよく、年齢を伺って一同ビックリ！とても69歳とは思えない、若々しさが印象的。大使館のバルコニーからは、東京タワーと高層マンションが。

大使を訪ねて
麻布の"世界"から

ARGENTINA

2021年、世界中が新型コロナウイルスの影響を受ける中、ギジェルモ フアン ハント大使 (以降大使)は、2週間の隔離期間を経て、4月に着任された。制限の多い環境の中で、着任以来、精力的に二国間関係強化に取り組んでいる。大使として日本が初の赴任地となるハント大使に、お話を伺った。

アメリカ、ブラジルでの赴任を経て日本へ

ハント大使は外交官として、アメリカのワシントンDCで6年間勤務、ブラジルのサンパウロ、ブラジリアでも職務をこなされてきた。成人している3人のお子さんを本国に残し、夫人と来日。

日本は初めてだが「日本に赴任できたことを、とても誇りに思っています」。ここ4~5年、アジアに関する書籍を読んでいたため、来日前の日本に対するイメージと実際との大きな違いはなかった。

「東京は世界有数の首都だと思っています。来日して改めて驚いたのは近代的なデザインの高層ビルが多いこと。また駅がきれいだなと思います。新幹線も素晴らしい。正確なダイヤの運行は見事です」

日本への輸出の一番はエビ

アルゼンチンと日本の貿易について伺った。輸出で最も多いのが「アルゼンチン赤エビ」。2020年の輸出量は1万6674トン、輸出額は1億4811万5901米ドル。次がアルミ、とうもろこし、ワイン、チーズ、はちみつなど様々な食料品が日本へ輸出されていることがわかる。私たちは日頃の食生活で、アルゼンチン産を味わっている。

「私はワインをたしなむ程度ですが、メンドサ州産、独特の渋みのマルベックという品種で作る赤ワインは自信をもってお勧めします」

アルゼンチンといえば、世界有数の牛肉消費国。「1人あたり年平均54kg食べています。日本は6kgですから9倍以上になりますね」

豪快な肉の塊をじっくり炭火で焼く料理「アサード」は、家庭でもレストランでも国民の一番人気のメニューだ。大使にとってのお袋の味も、やはりステーキ！という

答えが返ってきたほど。「母が焼くサーロインステーキは世界一」とにこり。

また日本と同様魚、米が美味しい国なので、寿司はブエノスアイレスにも、多くの店がある。大使も本国にいる時からよく召し上がっているため、本場、日本でもたくさん食べたいそう。

一方、日本からの輸入は工業製品が主流で、車のスペア部品、重機、鉄道機材などだ。

六本木界限は散歩に最適なコース

ところで、元麻布にある大使館周辺でお気に入りの散歩スポットは見つけれましたか？

「妻と大使館周辺や六本木方面に散歩していますよ。特に、かつてアルゼンチン大使館があった六本木ヒルズ周辺には思い入れがあります」

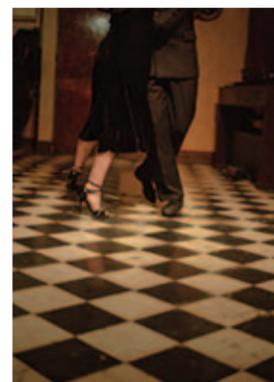
1920年代から政府が借りていた土地を1978年に購入。1989年に売却、その後現在の元麻布に大使館を建設、移った経緯があるからだ。

そして六本木ヒルズの一角、六本木 蔦屋書店には、洋書も多く、ご夫妻お気に入りのスポットとなっている。周辺には大使館も散在し、各国大使との交流も深まりそうだ。

国内旅行への関心も高く、既に広島、箱根、世界遺産の富士山、長崎へ足を運んでいる。

ちなみにアルゼンチンの世界遺産は13。うち5カ所が自然遺産だ。ブラジルとの国境にあるイグアス国立公園の「イグアスの滝」は世界最大級の滝で、私たちも画像や動画で目にすることがあるはず。パタゴニア南部に位置する「ロスグラシアレス国立公園」の氷河群も圧倒的な迫力で迎えてくれる。ペリトモレノ氷河、ウブサラ氷河、ピエドマ氷河など見所満載。

「アルゼンチンは、世界で7番目の面積を誇る、広大な国です。私たちの国を是非訪れて、美しい自然を満喫していただきたい」



19世紀末に誕生したアルゼンチンタンゴ @visitargentina 「ラ・クンパルシータ (La cumparsita)」の名曲を耳にすれば、自然と身体が動くかも？

アルゼンチンタンゴ

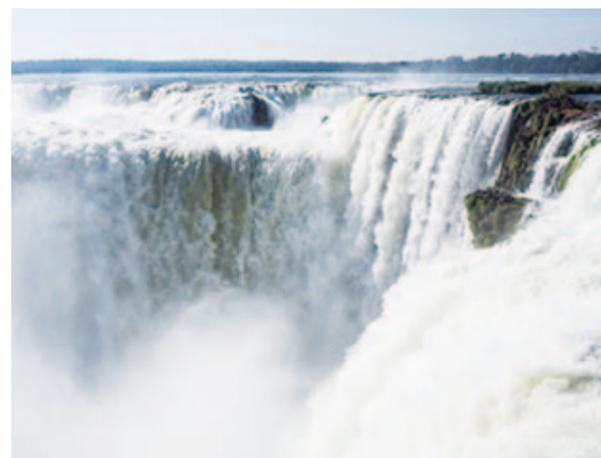
私たちがアルゼンチンと聞いて思い浮かべるのが「アルゼンチンタンゴ」だ。「皆さんは驚かれると思いますが、日本は世界有数のタンゴの街なんです。東京は教室や、定期的開催するミロンガと呼ばれる、タンゴのイベントもとても盛んです。私たちにとって、とても嬉しく誇りに思っています」と大使。

東京でのアルゼンチンタンゴの愛好者は、世界の中でもブエノスアイレスに匹敵するほどだという(古くは「黒猫のタンゴ」が大ヒットしましたね)。アルゼンチンと日本の深い関係は、こんな場面でもあるんだ、と改めて実感した。



奥が深いマテ茶の作法に使われる道具。マテ壺とフィルター付きのストロー「ボンビージャ」

インタビュー最後に、「アルゼンチンでポピュラーなマテ茶を知って頂きたい」と大使が茶道具を手にしなから、説明してくださった。マテ壺に茶葉を入れて、フィルター付きのストロー「ボンビージャ」で飲むのだが、日本の茶道と同様、作法には細かい決まりがあるそうだ。機会があれば、作法を教わりながらたしなんでみたいと思いつつ、大使館を後にした。



イグアス国立公園の「イグアスの滝」 @visitargentina



青い氷河としても名高い「ロスグラシアレス国立公園」の氷河群 @visitargentina

麻布未来写真館

堀田坂

麻布の境界線



2021(令和3)年10月 堀田坂上 ©おおばまりか



1974(昭和49)年 堀田坂 坂上から
写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏

普段何気なく通る通学・通勤路に「境界線」を意識することはないでしょう。特別何かが変わる訳でもないのだから当たり前、と言えばそれまでののですが気が付かないだけで実は雰囲気もルールもガラッと変わることも。ちょっとだけ気にしてみてください。何気ない日常の中に新しい発見があるかもしれません。

坂名の由来

標柱表記によれば「江戸時代には大名堀田家の下屋敷に向かって登る坂になっていた」とあることから坂名が「大名・堀田家」に由来することが読み取れます。

現在の堀田坂は標高21.9m(坂上)~13.2m(坂下)^{*1}で、西麻布4-8と渋谷区広尾の境界線上にある坂です。言い換えるのであれば港区と渋谷区の境界の坂になります。古地図によれば坂名の由来となる堀田家下屋敷は現在の渋谷区側になります。

坂は港区、由来は渋谷区とは何とも奇妙な縁です。そんな堀田家を少し調べてみると、一人(目を見張る)人物がいました。



1974(昭和49)年 堀田坂 坂下から
写真撮影:田口政典氏
写真提供:田口重久氏

2014(平成26)年 堀田坂 坂下から

蘭癖

聞いたこともないような言葉ですが、俗に「西洋かぶれ」を指し、幕末期に攘夷派から蔑称として用いられる例が多くなったようです。

今でこそ海外との交流による知識の拡充は当然で、「蔑称」である事の方がむしろ不快にすら感じられることでしょう。しかし、ある意味真逆の考え方をしていた攘夷派からすれば「異端」と見做すのも仕方ないことだったのかもしれない。

その人物の名前は堀田正睦。江戸時代後期の大名で老中首座。下総国佐倉藩(現在の千葉県)5代藩主です。

彼をして「蘭癖」と言わしめたのは、藩主として蘭学を奨励し、佐藤泰然を招聘して佐倉順天堂(現在の順天堂大学)を開かせた事、幕末から明治に有為の人物(西周<独協中学校・高等学校初代校長>や津田仙<青山学院大学創立に関わり、日本で最初に通信販売を行った人物。津田塾大学創立者・津田梅子は娘。>など)を育成したことからでしょうか。これは今日に至る日本の文化や学問に多大なる功績を残した、と言えるのではないのでしょうか。少なくともこの事績を見るだけでも「先見の明」があったことは明らかです。

●参考文献
郷土歴史人物事典 千葉(第一法規出版 1980)
□ 『増補港区近代沿革図集 麻布・六本木』港区立郷土歴史館 2010、所収

繰り返しますが、堀田家下屋敷は渋谷区にありました。しかしながら麻布の境界にこんな人物がいたこと、その名前を冠する坂がある事はとても誇らしいことに思えるのです。

麻布の開拓使牧場

佐倉藩最後の当主・正睦(正睦の四男)は1907(明治40)年に士族授産事業の一環として佐倉本邸の庭に「農事試験所」を作り農業振興に尽力しました。

ここに至る経緯がどのようなものであったかは今回の取材で明らかにはできませんでしたが、さかのぼる事30年以上前、麻布の地で起きた出来事が何かしらのきっかけになっていたのかも知れません。

堀田家下屋敷(麻布新筈町14、約5万坪)は、1872(明治5)年から1879(明治12)年まで麻布の一部でした。文献^{*2}によれば、麻布新筈町は現在の南麻布五丁目の北端、北条坂の南側、鉄砲屋敷一帯にあたる、とあります。1871(明治4)年に開拓使用地となり、渋谷村民有地3万坪と合わせて農業試験場「第三官園(開拓使)」になりました。1876(明治9)年にはその一部に牧場が造られ「麻布の開拓使牧場」と呼ばれました。東京のど真ん中に北海道開拓のための広大な農業試験を実施するとは、明治政府も思い切ったことをするものだ、と今だからこそ感心してしまいます。

麻布の境界線

実は麻布地区で港区の境界線上にある坂はこの堀田坂だけです。港区と他区の境界線上にある坂はごくわずかです。坂が多い麻布でありながらも珍しい場所でもあるのです。そんな場所には国際色豊かなお殿様が居て、今では考えられないような農業試験が実施されていました。「区の境界線」上に「江戸・明治期の境界線」をも感じるロマン溢れる場所ではありませんか? P.6「麻布の軌跡」でも紹介されていますが、この堀田坂周辺には現在の日本に通ずる産業・文化振興に多大な功績のあった人物が輩出されていくのです。

ほら、気になってきませんか…麻布の境界線。他のところはどうなっているのでしょうか?

*1 スマホアプリによる実測値です。
*2 『増補港区近代沿革図集 麻布・六本木』



「麻布未来写真館」とは

麻布地区総合支所では、地域への共感や愛着を深めていただくため、麻布地区の歴史やまちの移り変わりを記録、保存、継承する活動を行っています。

麻布地区の定点写真の撮影、昔の写真の収集等については、港区在住、在勤、在学者で構成された区民参画組織「麻布を語る会 麻布未来写真館分科会」が主体となって活動しています。まちの歴史や文化を多くの方々にご提供いただけるよう収集した写真をパネルとして港区ホームページや展示会で紹介していますのでぜひご覧ください。

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています!

明治から昭和にかけての麻布地区の建物や風景、お祭りなどの写真を募集しています。詳しくは、港区麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当までご連絡ください。
お問合せ 電話:03-5114-8812



1 黒田清輝

黒田清輝が21歳の時に生まれたバーナード・リーチ。黒田は1866年生まれ、リーチは1887年生まれ、英国人の陶芸家。今からおよそ100年前、国も時代も異なる2人の邂逅は今まであまり触れられることがなかった。

バーナード・リーチ(1887-1979)

英国人の陶芸家。1887年香港に生まれ幼少期を日本で過ごす。1903年ロンドン大学のスレド美術学校へ入学する。21歳の時にロンドン美術学校のフランク・ブランクウィーン^{*1}のもとでエッチング^{*2}を学び、留学中の高村光太郎と知り合う。1909年再び来日し日本で陶芸に出会い民藝運動の柳宗悦と交流する。1920年に帰英後はセント・アイヴスを拠点に陶芸の世界を切り拓いていく。

黒田清輝(1866-1924) (写真1)

日本における近代洋画の代表的な画家。鹿児島県に生まれ伯父の黒田清綱の養子となる。法律を勉強するためフランスへ留学するが、次第に画家を志すこととなり、ラファエル・コランに師事し1893年に帰国。健全な画風を確立し東京美術学校西洋画科や美術団体、白馬会にて多くの才能を育て美術教育に尽力した。

2 バーナード・リーチ「楽焼師皿」
1919年益子陶芸美術館

の建設を鴻鵠の志、としていた黒田は、彼が会頭を務める美術団体^{*3}から文部省へ美術館建設の建白を提出し日記に「美術館建設ノ建議書ヲ大臣ニ提出ス」と記している。

また、黒田は松方家と交流があり「1919年11月28日松方氏三田邸ニ8名ノ会合」が行われたことを記録している。この中には、松方幸次郎^{*4}を含む松方3兄弟、ブランクウィーン、リーチ、黒田、そして建築家の大江新太郎、他が集まっていた。松方もまた、リーチのエッチングの師であるブランクウィーンと共に国内に新しく美術館を建設しようと計画していたのである。彼はブランクウィーンの助言を受け数々のコレクションを購入し、それらを展示するための設置計画を着々と進めていた。黒田の日記には、同年12月9日「松方氏ノ共楽美術館ノ設計ニ就テ大江氏ヨリ詳細ナル意見ヲ聞ク」としてブランクウィーンがデザインした設計図を見て大江と相談している。翌年3月12日に黒田は、松方家でリーチを含めた美術家たちや大使、政界の人物と共に名画を鑑賞している。こうしてリーチは、師であるブランクウィーンと再び接点を持ち、松方家の人々や各界の人物と黒田を通じて機縁を得ていたのである。

iv 1920年—2人をめぐる美術界—

美術品を集め恒久的に展示公開する、美術館というシステムは、主な文化施設のひとつであることは、現代では自明のことである。その起源は世界の珍しい品を集め、蒐集したことに端を発し、やがて多くの作品を鑑賞出来る展覧会といった場が生まれた。競売会や展覧会に伴う出版物や美術批評などの美術作品に関する、こうしたシステムも美術館と同じくして出現し発展してきた。

黒田が会頭を務める国民美術協会は、創立から11年を経て機関誌『国民美術』を創刊する。『国民美術』の淵源を遡ると『美術月報』『美術旬報』『美術週報』へ辿ることが出来る。これらは、大正期全体の日本美術の様相を見てとれる興味深い雑誌である。美術雑誌の記者として20年余り、雑誌編集に携わった坂井犀水においては、時機を逃さず物事の本質を捉え、美術界の原説を盛り上げていった、彼の手腕に依拠することを忘れてはならない。

リーチの関係をみると4年振りに開かれた展覧会を、1917(大正6)年12月9日「リーチ氏の近作」として『美術旬報』で報じている。麻布時代の2年程前のこの時、黒田は「リーチ氏作エッチング額(15円)」を購入する。1920(大正9)年6月には麻布時代の終わりに開かれた展覧会が「展覧会月評」に示されている。

黒田は同年6月29日「午前7時東京駅ニリーチ氏ヲ送リ」始メテ議席ニ列ル」と日記に残しリーチの帰国を見送った、その日に貴族院議員として登院を果たしている。こうして黒田は晩年を美術行政に力を注いでいく一方で、リーチが日本を離れる3カ月前に彼を協会の会員に推薦している。大正期の美術界を牽引してきた国民美術協会は、その求心力を失うことなく、絵画、建築、デザイン、工芸部門を縦断した展覧会を次々と主催していくのである。

1920年、『白樺』を原説の場とした同人との交流の中にあつたバーナード・リーチは、西洋19世紀後半のアカデミズムに学んだ、日本美術界の大家、黒田清輝から知遇を得たことはいまでもないだろう。

*引用に際し旧字は新字に改めルビは省略した。

*1 フランク・ブランクウィーン(1867-1956) 英国人の画家。W・モリスの工房で働いたアーツ&クラフツの後継者のひとり。夏目漱石は『それから』で彼の作品を評価している。

*2 エッチング 銅や亜鉛など金属の表面に腐食作用を利用して行う表面加工の技術。

*3 国民美術協会 1912(大正元)年の文展第2部審査員懇親会の席での松岡壽の発言から始まった美術団体。協会展の開催と公立美術館建設の2つの理念が活動の主な目的であり、岩村透を中心として、黒田清輝、小山正太郎、藤島武二、久米桂一郎、森林太郎他の会員で構成された。会員数は最大259名となった。

*4 松方幸次郎(1866-1950) 松方正義の三男。川崎造船所の社長となり第1次世界大戦中の英国で膨大な数の美術品を蒐集する。松方コレクションを展示するため1959(昭和34)年国立西洋美術館が設立された。

バーナード・リーチと黒田清輝 邂逅する麻布

i リーチの災難

生誕からの10年間をアジア圏で過ごしたリーチは、1909(明治42)年再び日本を訪れる。東京、上野でエッチング教室を開き、そこへ訪れた雑誌『白樺』の同人、志賀直哉、武者小路実篤、柳宗悦らと親交を結んだ。1911(明治44)年お茶会の席で楽焼に出会い、その焼物の美しさに魅了され6代目尾形乾山へ入門する。千葉県我孫子市に窯を築き作陶は順調であった。しかし、1919(大正8)年5月、窯の焚き過ぎから生じた火事で仕事場が全焼し、我孫子生活との別れを余儀なくされる。突然、リーチにふりかかった災難を聞いた黒田は、援助を申し出る。彼はこの申し出を受け1年にわたる麻布での生活が始まる。リーチはこの時32歳、一方58歳で人生を閉じることとなる黒田は53歳。こうして黒田は、自身が所有している土地の一部に新しく窯を築くことへ乗り出していくのである。

ii 東京市麻布区筈町177番地

『黒田清輝日記第4巻』に拠ると、黒田は華族美術の展覧会開催に尽力していたこともあり1919年7月15日、現在の新宿区河田町にある小笠原伯爵邸を訪ねている。日記の一文に「リーチ氏ノ窯ニ開スル交渉ノ顛末ヲ語り」とあるように窯を築く際、伯爵に自分の考えを語り相談した結果、麻布に所有している筈邸を使うこととなった。邸内のどこに窯を設けるのか、参考のために伯爵邸の宏大な庭内の各所を巡回し観察している。

1924(大正13)年編成の地図で筈町177番地を中心に「黒田邸」を確認出来る。南端にあたる赤十字社病院と道路を隔てた敷地の大部分が黒田邸であり、その内訳は、1913(大正2)年3月の調査による『東京市土地宝典麻布区』の地籍図を基にした一覧表に記されている。地番177-1号(1,723坪)から始まり3号(1,389坪)、4号(602坪)、6号(169坪)、8号(215坪)と合わせ宅地だけでも2,375坪の土地を所有している。

黒田の日記には「リーチ氏等ト筈邸内ノ敷地ヲ検分セシ由ナリ」と記され、邸内に新しく窯を築くにあたり、画廊、流逸荘の主人の仲省吾が警察との遣り取りやリーチ家族の住居等、実務を引き受けていた。1919年10月23日新しく完成した窯は東門窯と名付けられ、窯開きの式が執り行われる。(写真2)

同年12月に美術記者の坂井犀水が新窯の取材に訪れ、『美術月報』(「リーチ氏の新窯を訪ふて」)に記事を掲載している。坂井が訪れた日は本窯を焚き付けた日であり、仲氏に徹夜の用意を頼むほど多忙を極めていた。リーチは熱心に東洋の研究を続ける一方で「ルネッサンス時代の伊太利及び和蘭の陶器の古法」に依って作品を製作していた。坂井に「明年に展覧し英国へ帰る予定だ」と語っている。日本人の工人達の手をかりて東門窯で作陶された多くの作品は、優れたデッサン力と、彼の間然するところのない技法が見事に再現されていると書いていだろう。(写真3)

iii 麻布での邂逅

リーチは日本で過ごした日々を回顧録に残している。「I greatly regret that in Japan is no permanent public exhibition of good European paintings ...」(A review, p. 13.)日本に欧州の優れた絵画を一般公開する常設展示のないことに、リーチは思い置いている。リーチと同じように考え、新しく美術館



2 1919年10月23日。右より、リーチ、リーチ夫人、黒田夫人、1人おいて黒田清輝

●参考文献

- 式場隆三郎編著『バーナード・リーチ』(建設社 1934)
- 夏目漱石『漱石全集第4巻 三四郎・それから・門』(岩波書店 1966)
- 黒田清輝『黒田清輝日記第4巻』(中央公論美術出版 1968)
- 伊相仁『世紀末と漱石』(岩波書店 1994)
- 石崎等『夏目漱石—テキストの深層』(小沢書店 2000)
- 鈴木禎宏『バーナード・リーチの生涯と芸術』(ミネルヴァ書房 2006)
- 『美術月報第1巻』オンデマンド版(1号-12号1919/8-1920/8 ゆまに書房 2007)
- Bernard Leach A review=回顧:1909-1914, NDL Digital Collections, 2011, p.13.
- 坂井犀水「批評に就ての偶語」『美術批評家著作選集第19巻 批評と批評家』(ゆまに書房 2016)
- 藤井淑禎編『漱石紀行文集』(岩波書店 2016)

●地図

- 『東京市土地宝典麻布区・大正2年3月調査』(金洪社 1913)
- 『大正13年(1924)東京市麻布区図』(東京通信局1924、『増補港区近代沿革図集 麻布・六本木』港区立港郷土資料館 2010、所収)

*謝辞 貴重な画像をご提供頂いた、益子陶芸美術館及び東京文化財研究所に心より感謝の気持ちを申し上げます。



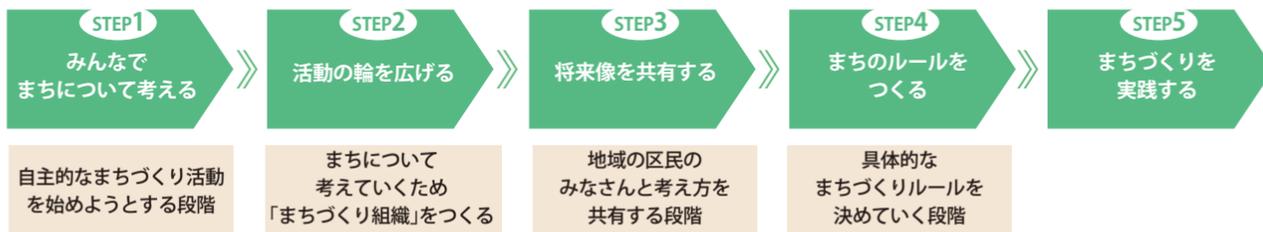
地図『東京市麻布区図』(1924)

港区まちづくり条例を活用したまちづくりの仕組みのご紹介

港区では、地域の課題は地域で解決し、地域の発意と合意に基づくまちづくりを推進するため、地域主体のまちづくり活動を支援しています。

現在、麻布地区内で組織登録されているまちづくり組織は右図のとおり4団体あります。(令和3年4月1日時点) 2団体で「地区まちづくりビジョン」の登録、1団体で「地区まちづくりルール」の認定を受け、より効果的にまちづくりが実践されています。

まちづくり制度の手順



認定を受けた地区まちづくりルールを一部紹介します。



六本木三丁目東地区まちづくり協議会

- 災害に強いまちをつくる
- みどり豊かで誇りの持てる景観をつくる
- 地域の絆を強固にする
- 治安や風紀を維持する
- みんなが安心して暮らせる環境をつくる

※区域内で所有権の譲り受けや建築を行う場合には、協議会への申請が必要です。

各まちづくり協議会活動区域内での所有権の譲り受けや建築を行う場合、また、まちづくりに興味のある方は下記までお問合せください。

詳しい内容を掲載したパンフレットや登録されている「まちづくり組織」「地区まちづくりビジョン・ルール」はまちづくり課まちづくり係の窓口及び港区ホームページでご覧いただけます。

お問合せ／麻布地区総合支所まちづくり課まちづくり係 電話／03-5114-8815



2021年度 村岡花子記念講座を開催します

港区と東洋英和女学院の連携事業「2021年度村岡花子記念講座」を開催します。「村岡花子記念講座」は学院と港区との連携事業として、2016年秋にスタートし、村岡花子の翻訳者、児童文学者、歌人、教育者、編集者、放送作家、社会活動家としての多岐にわたる人物像に迫りつつ、広く地域にもその知見を一般公開していく試みです。2021年度は、「教育の未来を考える」をスローガンに、下記講演を開催します。ぜひお越しください。

「ヴォーリズの学校—そのキャンパス・デザインに込めたもの—」

講演 山形政昭氏 大阪芸術大学名誉教授



山形政昭氏プロフィール

1949年大阪生まれ。京都工芸繊維大学建築学科卒業、同大学院修士課程修了、工学博士。元大阪芸術大学・大学院芸術文化研究科教授。専門分野は建築歴史、建築計画。とりわけウィリアム・メレル・ヴォーリズの建築と、関西の近代建築、住宅建築に関心があり調査を行う。著書に『鳥居坂わが学び舎1933-1993』（共著）、『ヴォーリズ建築の100年』（共著、創元社）、『ウィリアム・メレル・ヴォーリズの建築』（創元社）などがある。

- 日時 2022年2月27日(日)午後2時～4時
- 定員 80名
- 会場 東洋英和女学院本部・大学院棟2階201教室(港区六本木5-14-40)
- 受講料 無料
- 申込期間 2022年2月1日(火)より申込開始
- 申込方法 氏名・住所・電話番号記入の上、メール・FAX・往復はがき・生涯学習センター HP内Googleフォームで生涯学習センター横浜事務室まで

お申込み・お問合せ／東洋英和女学院大学生涯学習センター 横浜事務室
〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町32
E-Mail: shougaictr@toyoeiwa.ac.jp
電話／045-922-9707 FAX／045-922-9701
主催／東洋英和女学院大学 共催／港区麻布地区総合支所

※新型コロナウイルス感染症感染拡大状況等不測の事態による開催中止及び変更事項について、最新情報は大学生涯学習センターホームページにてお知らせいたします。
※開催にあたり最大限の感染防止対策を行います。換気のため窓を開けますので膝掛等防寒のご準備をお勧めいたします。

令和3年度 感染症対策を踏まえた避難所開設・運営訓練(麻布会場)を実施しました。

令和3年11月14日(日曜)に、港区立六本木中学校において感染症対策を踏まえた避難所開設・運営訓練(麻布会場)を実施しました。

新型コロナウイルス感染防止のため、今年度も総合防災訓練を中止し、代替として麻布地区の各地域防災協議会を対象に避難所開設・運営訓練を実施しました。当日の参加者は96名でした(関係機関等を含む)。

最初に講義「避難所開設・運営で大切な3つのポイント ヤ・レ・ル」を行い、避難所を開設・運営する中で重要となる「ヤ(役割)・レ(レイアウト)・ル(ルール)」を学びました。講義後、各協議会で実際に避難所を開設・運営するにあたり、役割・レイアウト・ルールをどのように設定するのか等を話し合い、検討を行う図上訓練を実施しました。



訓練の後半では、六本木中学校の体育館に移動し、実際に避難者を受け入れ、避難スペースへ案内するまでの受付訓練を行いました。

日本語を話すことができない人、配慮が必要な人、ペットはどうするかなどの状況を付与し、より実践的な訓練を行うことができました。

また、区では、区民避難所(いきいきプラザ除く)にプライベートテントとベッドを各5個ずつ配備し、感染症対策を進めております。

コロナ禍の中、区民避難所では収容人数が約3分の1以下になるなど見直しを図っております。区民の皆様におかれましても、自宅に被害のない場合は「在宅避難」をよろしく願います。

いつ起こるか分からない災害のために、地域の方々と繰り返し訓練を行うなど、有事の際に備えてまいります。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係 電話／03-5114-8802



港区麻布地区総合支所だより



自転車の損害賠償保険に加入していますか？

都内で自転車を利用する人は、自転車損害賠償保険等への加入が義務付けられています。自分自身と被害者を守るため、万が一事故を起こしてしまったときに備えて自転車の損害賠償保険に加入しましょう。

港区民交通傷害保険【港区で受付を行っている保険】

港区民交通傷害保険は、少額の保険料で加入でき、車両による交通事故でケガをしたときに、入院・通院の治療日数と治療期間に応じて保険金をお支払いする制度です。

また、自転車運転中の加害事故によって法律上の損害賠償責任が生じたとき、その損害賠償金や費用を補償する「自転車賠償責任プラン」もあわせて募集します。

※自転車賠償責任プランのみに加入することはできません。

加入対象者 令和4年4月1日時点で港区に住所・勤務先・学校がある人

保険期間 令和4年4月1日午前0時～令和5年3月31日午後12時

加入方法

●個人加入

区内金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・ゆうちょ銀行・郵便局)で配布する加入申込書に必要事項を明記の上、保険料を添えて申し込み

●団体加入(町会・自治会等10人以上で加入)

団体加入申込書に必要事項を明記の上、人数分の保険料を添えて各地区総合支所協働推進課へ申し込み

●申込期間

令和4年2月1日(火)～令和4年3月31日(木)

コースの種類と保険料

表の7つのコースから1つのコースを選んでご加入ください。複数のコースへの加入はできません。

コース	補償内容(最高保険金額)	一時払保険料
X J	交通傷害(35万円)+自転車賠償(1億円)	1,400円
A J	交通傷害(150万円)+自転車賠償(1億円)	1,900円
B J	交通傷害(350万円)+自転車賠償(1億円)	2,500円
C J	交通傷害(600万円)+自転車賠償(1億円)	3,500円
A	交通傷害(150万円)	900円
B	交通傷害(350万円)	1,500円
C	交通傷害(600万円)	2,500円

※全コースに被害事故補償(最高保険金額600万円)が付きます。

引受保険会社 損害保険ジャパン株式会社

このご案内は概要を説明したものです。詳しくは、損害保険ジャパン株式会社東京公務開発部営業開発課(新宿区西新宿1-26-1)までお問い合わせください。

電話 03-3349-9666 (平日午前9時から午後5時まで)

承認番号: SJ21-08856 承認日: 2021/10/26

◆既に加入している保険等に「個人賠償責任保険」が付帯されている場合もあるので、契約内容をご確認ください。

お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課協働推進係

電話/03-5114-8802

都税事務所からのお知らせ

12月は固定資産税・都市計画税第3期分の納期です(23区内)

12月は、23区内の固定資産税・都市計画税第3期分の納期です。6月に発送した納付書により12月27日(月)までにお納めください。口座振替、金融機関・郵便局のペイジー対応のインターネットバンキング、モバイルバンキング及びATMのほか、パソコン・スマートフォン等からクレジットカードでも納付できます。さらに、スマートフォン決済アプリでも納付できますので、ぜひご利用ください。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により納税が困難な方については、申請により1年間納税を猶予する制度があります。

詳細は、HPまたは下記問合せ先へ

お問合せ/港区にある物件について 港都税事務所
電話/03-5549-3800(代表)



納期内納税にご協力をお願いします

都と区市町村では、安定した税収と納税の公平性確保を目指して、12月の「オール東京滞納STOP強化月間」の期間中、都と区市町村が連携し、納期内納税の取組を推進しております。詳細は、下記問合せ先へ

お問合せ/主税局徴収部個人都民税対策課
電話/03-5388-3039

年末年始における窓口業務のご案内

都税事務所・都税支所・支庁、都税総合事務センター・自動車税事務所での都税の申告・納付・証明等の発行は、年末は12月28日(火)まで、年始は1月4日(火)からとなります。

12月29日(水)から1月3日(月)までの間に申告書・申請書を提出する場合は、都税事務所・都税支所などに設置している「申告書等受箱」をご利用ください。

お問合せ/港都税事務所
電話/03-5549-3800(代表)



「麻布未来写真館」パネル展を開催します！

麻布地区総合支所では、麻布のまちの変化を保存する取り組みとして、地区内の企業や学校等の協力のもと、区民とともに麻布の昔の写真収集やまち歩きを行い、パネル展開催の準備を進めてきました。

このたび、今と昔の比較写真などのパネル展を、区内各施設にて開催いたします。ぜひご覧ください。



パネル展の様子

会場 港区役所1階ロビー(芝公園1-5-25)

日時 令和4年1月5日(水)～1月14日(金)
午前8時30分～午後5時15分

※土曜、日曜、祝日休み

※最終日のみ午後4時まで

会場 フジフィルムスクエア ミニギャラリー
(港区赤坂9-7-3[東京ミッドタウン])

日時 令和4年2月4日(金)～3月3日(木)
午前10時～午後7時

※最終日のみ午後4時まで

※入館は終了10分前まで

※やむを得ず休館や、営業時間の変更をさせていただく場合がございます。

お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課 地区政策担当
電話/03-5114-8812

買い物するなら地元の商店街で

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せください

住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電話/03-5114-8812 ●FAX/03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧いただけます。



「ザ・AZABU」は英語版も3カ月後に発行しています。

ザ・AZABU

●配布設置場所のご案内
六本木一丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉の各いざいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等
●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Staff 出石供子
おおばまりか
大村公美子
加生美佐保
菅野あゆみ
小池澄枝
Mai S.
高柳由紀子
田中亜紀
田中康寛
畑中みな子
武藤佳菜
堀内明子
堀切道子
八巻綾子

編集後記

コロナ禍は「ザ・AZABU」にも影響を及ぼしました。2020年4月に緊急事態宣言が発出され6月発行号の制作は中止。その後も委員の間では様子を見たほうが良い、少しずつでも再開していこうなどの意見に分かれました。結局2020年9月発行号以降は定期通りで、しかし紙面は減らして4ページに、取材は最少人数で、編集会議もオンラインを活用して行いました。「ザ・AZABU」の灯が消えることがないようにと願いつつ活動です。1年半ぶりのダイナミックな8ページの紙面を、ぜひお楽しみいただければと思います。(田中亜紀)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。

年中無休/午前8時～午後8時

※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752

お問合せフォーム/ <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html>

“Minato Call” information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.

Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;

Inquiry submission form: <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html>